

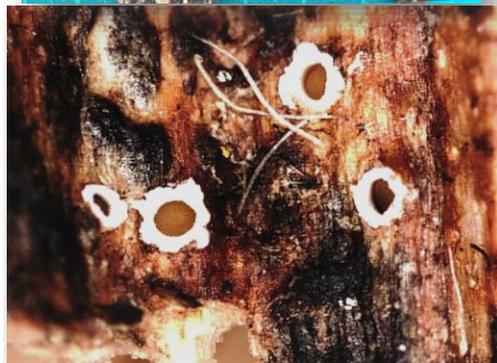
(和名なし) スティックティス属の一種



Stictis sp.

オストロバ目スティクティス科

採集者	中島淳志
採集日	2016/9/19
採集場所	静岡県藤枝市中ノ合



◆観察ノート

- ・今回は**草本の茎**に生えていましたが、**樹皮**に発生しているのも比較的好く見かけます
- ・**子囊盤**が植物の表皮を突き破るようにして現れます (**破出性**)
- ・**子実層面**は**黄褐色**ですが、**縁部**は**白色**でフレア状に広がり、やや裂けます
- ・**子嚢胞子**は**非常に長く**、**多数の隔壁**を有する**糸状**です (正確に計測するには工夫が必要そうです)
- ・**子嚢胞子**は**コイル状**にきれいに折り畳まれた状態で**子嚢**に収納されているようです

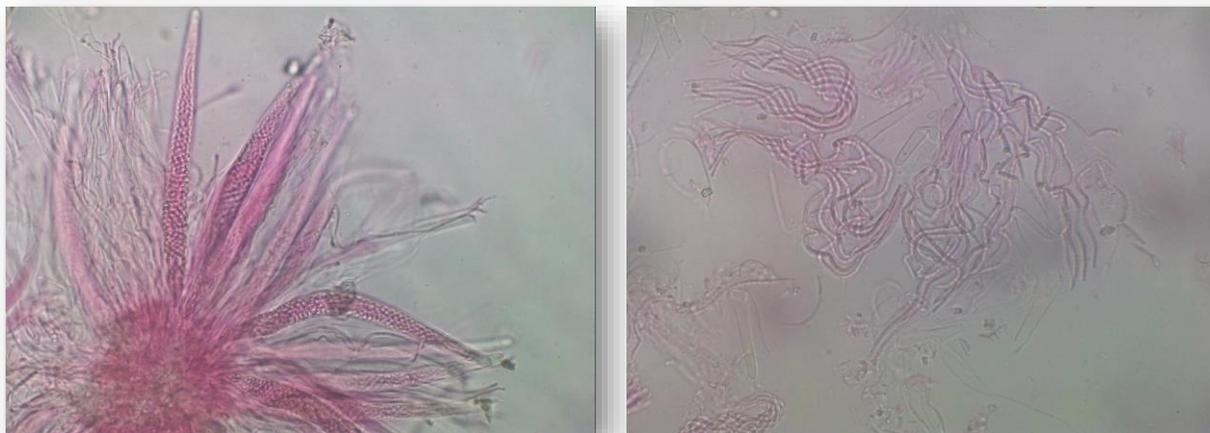
◆分類学的情報

- ・スティクティス科の一部の種は**地衣類**で、環境によって地衣になったりならなかったりするものもありますが (optional lichenization)、今回見つけたものは**地衣化**していませんでした

◆よく似た種との識別

- ・この仲間は種数が多く、種の同定には**"きれいな"切片**をつかって顕微鏡で細かい所まで見る必要があります (…今回は"きれいな"切片はつくれなかったため、属までしか同定できませんでした)
- ・ただ、Wedin et al. (2006) の検索表では、子囊盤 (子実層面) が黄褐色という形質だけで2種に絞れてしまいます
- ・それは**S・ラディアタ** (本属の基準種) と**S・ブルネッセンス**の2種です
- ・この2種の違いは**顕微鏡的なごく細かい部分 (側糸状体の配列や形状など)** で、かつこの仲間の子実体の色は変わりやすいのではないかと思うので、種レベルの同定は控えました

・同じオストロパ目の *Chapsa* 属は本属に一目そっくりな子囊盤を形成する種を含みますが、はっきりとした地衣体を有する地衣類です



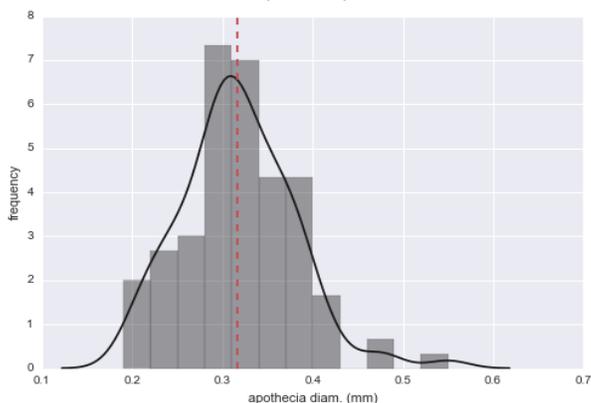
同定のエビデンス

(エビデンス1) Wedin, M., Döring, H. & Gilenstam, G., 2006. *Stictis* s. lat. (Ostropales, Ascomycota) in northern Scandinavia, with a key and notes on morphological variation in relation to lifestyle. *Mycological research*.

(大菌輪 R3-03317)

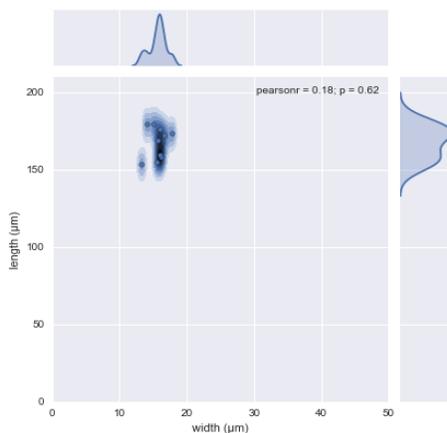
	供試標本	Wedin et al. (2006) (<i>Stictis radiata</i>)
子囊盤の直径	平均約0.32 mm (下図参照)	約0.3-0.7 mm
子囊盤の色	黄褐色	黄褐色
子囊盤縁部の色	白色	白色
子囊盤の形状	円形	-
子実層面	平滑で光沢はない?	平滑で光沢がある
子囊のサイズ	平均167.40×15.70 μm (下図参照)	約150-180 μm
子囊の形状	円筒形で先端が徐々に細まる鈍円錐形	-
子囊あたりの胞子数	8	8
子囊胞子のサイズ	最大200 μm超×2.5 μm	約140-160×2-2.5 μm
子囊胞子の色	無色	-
子囊胞子の形状	屈曲する糸状	-
子囊胞子の隔壁数	(多数)	-
子囊盤縁部断面	-	4層からなる
側糸	糸状	(あり)
側糸状体層	-	並行に配列する疎らに分枝する菌糸からなる

図1：子囊盤の直径 (n=100) 白色の縁部を含む



ave = 0.32 mm

図2：子囊のサイズ (n=10) 幅は最大の部分



ave = 167.40×15.70 μm